

VR使って交通安全教室

由利工業高 地域貢献部制作

由利工業高校（由利本荘市）の生徒が制作した仮想現実（VR）動画を使った交通安全教室が10日、同市の新山小学校で行われた。動画は同小の通学路を360度カメラで撮影し編集したもので、児童は実際に通学路を歩いている気分です交通安全を学んだ。

主に撮影、編集を担った3年生は既に引退。現在は1年生11人が活動している。

新山の5年生約130人が交通安全教室に参加。代表の児童数人がVRゴーグルを着け、その他の児童はスクリーンに映し出される映像で学んだ。

VRゴーグルを着けた児童は上下左右をきよきよと見渡し興味津々。スクリーンで360度の映像を見た児童は「おー」と歓声を上げていた。

動画を作したのは、今年発足しボランティア活動などを行う地域貢献部の部員。児童へのアンケートで危険と判断した通学路2カ所を6月に撮影し、動画を編集していた。「信号機がないよ!」「車が



専用のゴーグルを着け臨場感のある映像を体験する児童

新山小児童が動画体験

がた〜と通るよ!」などの注意書きが添えられた。ゴーグルを着けてVRを体験した櫻庭大翔君は「実際に歩いている感覚になった。気を付けるべきことも書かれていて、見やすかった」と話した。

交通安全教室では、交通ルールや標識の意味などを問うクイズも行われ、児童の楽しそうな声が体育館に響いた。地域貢献部の塩崎晃太郎長は「動画やクイズに対する児童の反応がうれしかった。安全に注意して通学してくれらうれしい」と話した。

（進藤麻斗）



地域貢献部が制作した動画の一場面